

山寺通信 1月

平成 30 年

AR 古印体 B

キャリーティーボトル VS ペットボトル

いよいよ新年の幕開けです。色々の場所で良い、悪い、の格差がはっきりした時代に入ります。全体が一つの方向へ向かう時代から 2 極にも 3 極に分かれることになります。答えは 1 つではなく、向かう先が違えば手段も違います。人手不足、AI 技術、寡占、経済格差、今までは混沌とした社会と言われてきましたが、これからは大手が市場を席捲する時代になりますがアマゾンのような時流に乗った大手も方向を間違えば消えてしまいます。飲み物の世界でも、基本的にはお茶とコーヒーに大別されます。この世界も大手が大きな流れを作っています。しかし嗜好飲料は、多くの切り口が大手のボトルメーカーにも専門店にも可能性があります。ブルーボトルコーヒーは、日本の町のコーヒー店が参考になっていると言われています。日本茶は、ドリンクメーカーが宣伝で、急須で淹れたお茶に近い味と言って茶葉にはかなわないと宣伝しています。そこで多くの客を取られた代表的な製品のペットボトルに対して、屋内ではフィルターインボトル、屋外ではキャリーティーボトルで対抗することで消費者を呼び戻します。

最近商品に対してのこだわりが、買う側の消費者と売る側の店の双方にあります。とりあえず質が良くて経済的に安いものは売れます。最近開店したカフェ「サンGRAM」がありますが、茶葉 3g が丁度よい適量だと思われま。キャリーティーボトルでは煎茶でも焙じ茶でも適量でした。

100g800 円のお茶の場合 100g/3g=33 回 800 円/33 回=24.2 円 1 本当たりのコスト約 25 円です

このボトルの使用する茶の量と経済性、ドリンク業者の言う茶葉で淹れた本物の味が味わえます。

組み合わせでより楽しくアレンジする



有田焼抹茶碗 田庄陶苑手描き 季節の抹茶碗



田庄陶苑(当社取引窯)

11.5/8Hcm ¥2600

椿・桜・あやめ・鉄仙

マグカップ

すべて手描きです

12月29日から1月5日まで休みます。2018年1月6日が仕事は初めです。